

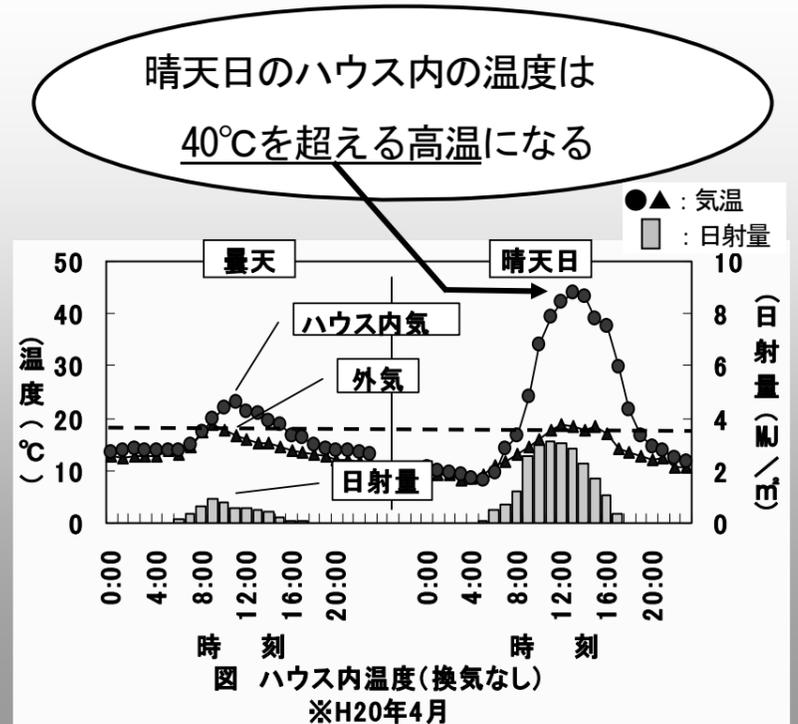
高温に打ち勝つ米づくり！コシヒカリの田植えは5月15日を中心に！

- 育苗ハウスの高温に注意し、換気に努め苗の軟弱徒長化を防止する。
- 代かきはできるだけ田植時期に近づけて行い、除草剤は遅れずに散布する。
- 田植え時の基肥量は、品種や土壌条件、前作に応じた施肥基準を遵守する。

1. 硬化期の育苗管理

～換気による温度管理を徹底して、健苗づくりに努める～

- 日中のハウス内温度は20～25℃を目安に管理する。
(特に、晴天日は早めに換気を行う)
- かん水は朝1回を原則として、床土の乾きに応じて的確に行う。(かん水過多は根張りを弱くするので、かん水量に注意)
- 田植え7～10日前からは、10℃以下の低温にならない限り、昼夜ともハウスを開けて苗を外気に慣らす。
- 強風の際はハウスの風下側を開ける等、苗に直接風が当たらないよう注意する。



2. 本田準備と病害虫防除

～田植えは代かきから5日以内に行う～

- 整地の良否は稲の生育や雑草の発生に影響するので、整地は丁寧に行って、田面の均平に努める。
- 雑草の発生を抑えるため、代かきは田植え予定日の3～5日前に実施する。また、代かきは少なめの水で行って、稲わら等の埋没に努める。さらに、濁り水は排水路へ流さない。

< 苗箱施薬 >

対象品種	主な対象病害虫	薬剤名	施薬量	施薬時期
コシヒカリ	いもち病、紋枯病、 イネミズゾウムシ、 ウンカ類、 イネドロオイムシ、	ルーチンエキスパート 箱粒剤 (※今年から統一)	50g/箱 (1kgで苗箱 20枚分)	は種時(覆土前) ～移植当日
てんたかく てんこもり	フタオビコヤガ、 ニカメイチュウ、 ツマグロヨコバイ等			

★使用農薬を統一したため、あらためて散布機の日盛の設定をきちんと行い、適量を散布しているか確認する。
★育苗後のハウスで野菜を作付けする場合、薬剤散布は苗箱をハウスの外に搬出してから行う。
(播種同時もしくはハウス内で散布した場合、ハウス内で栽培した野菜が吸収、残留する恐れがあります。)

3. カメムシ対策 第2回

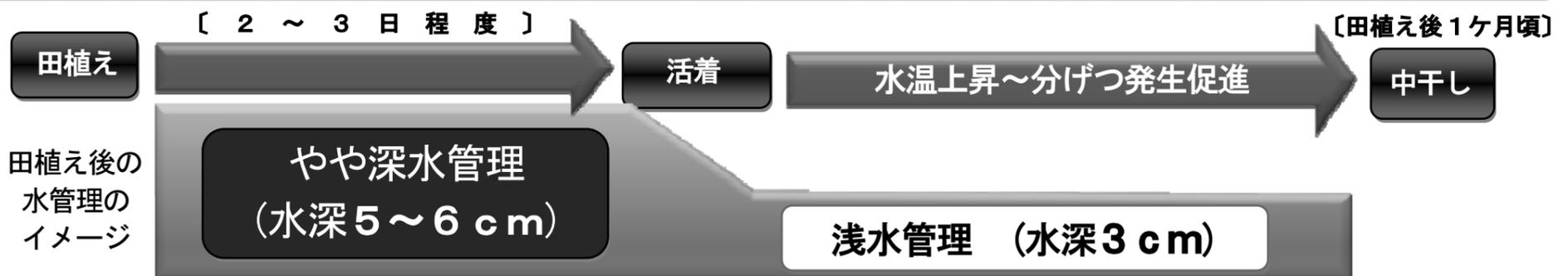
～斑点米カメムシが好む雑草を田植え前から減らす～

- 斑点米カメムシ類は、主にイネ科雑草に生息します。
- バスタ液剤やザクサ液剤等の除草剤が使用できる場合は、**田植え前までに散布する。**
※この場合、周辺の農用地や作物に飛散しないよう、風や散布方向・範囲に注意して散布する。
- 除草剤が使用できない場合は、**イネ科雑草が穂を出さないよう、こまめに草刈りをする。**

4. 田植えと水管理

～初期分けつ確保には「適切な植付け」と「適正な水管理」が必要～

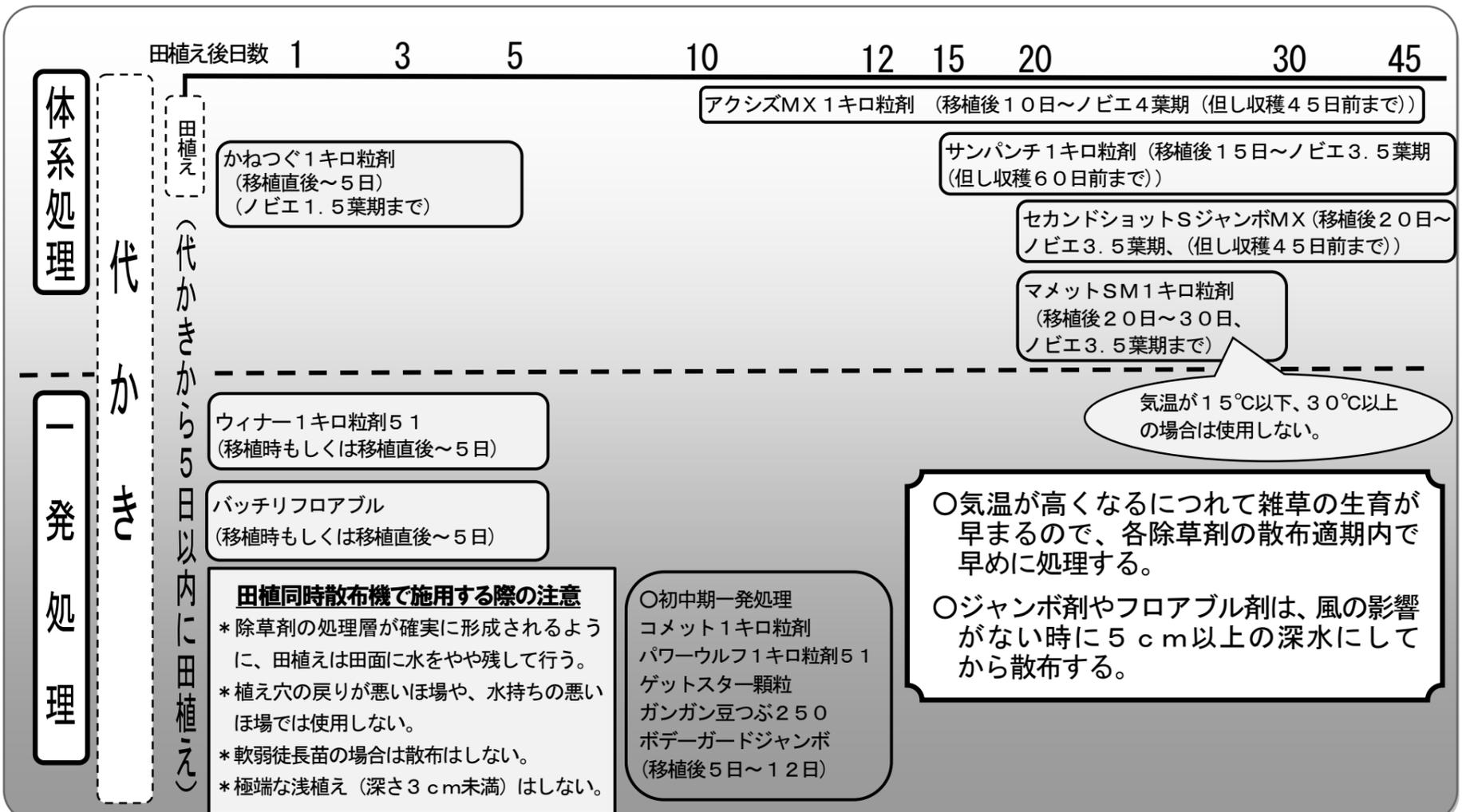
- 栽植密度は70株/坪セット**を基本とし、1株の植付本数は**3～4本**、**植付深さは3cm**に設定する。
- 基肥量は、品種や土壌条件、前作等に応じた施肥基準を遵守する。
- 田植え前に目標とする量で確実に施肥できるよう、施肥装置の設定と施肥量を必ず確認する。
- 活着までは**5～6cm**程度のやや深水にして植え傷みを防ぎ、田水温を確保する。
- 活着後は**3cm**程度の浅水にして、早朝入水・昼間止水で田水温を高める。



5. 除草剤の散布は適期・適正に

～使用基準を遵守し、ムラなく均一に適期散布～

- 除草剤を散布する前に、畦畔や排水口から漏水していないことを確かめ、漏水箇所を手直しする。
- 河川への農薬成分の流出を防ぐため、**散布後7日間は「止水管理」として、落水やかけ流しはしない。**
- 散布後5日間は湛水状態を保つ。**
- 例年、雑草が多い圃場では、体系処理をしましょう。



★育苗や本田作業後は、忘れずに生産履歴簿へ作業内容を記入しましょう。

水稻情報第3号の発行日は5月23日(予定)